7月号　令和３年 ６月３０日発行

# 荏田小だより

横浜市都筑区荏田南町６９４番地［TEL 911－0149］
アドレス［http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/eda/］

## 足音が畑の肥料になる

副校長　中里　　充

『ふくこうちょうせんせい、みてー。５つ　めがでたよ。』　「どれどれ」

『おおきいはっぱ、７こできた。』　「大きいねー。」

『ひげがのびて、おとなりさんとくっつくから、こんどしちゅうをたてるんだ』

「そうなんだー。」

『おはながさいたよー。』『ひげがしちゅうをこえちゃったー。』

「うん、うん」

これは１年生の子どもたちと私との会話の一部で、毎朝の登校指導後のルーティンになっています。

１年生は生活科の学習として、白門付近で一人一鉢あさがおを育てています。毎朝の水やりを欠かさず、成長の様子を観察し、大事に育てています。その後ろで、朝の交流に来ている６年生が１年生を見守り、必要な声掛けをして１年生と接しています。私はこの１年生と６年生の関わりの構図が大好きです。そして、私自身この１年生との時間を大切にしています。

子どもたちは、毎日自分が育てているあさがおの変化を観察することで、支柱が必要になったことや伸びてきた蔓を支柱に巻き付けること等、最適な方法を考えながら世話をしています。そして、きれいな花が咲き始めました。私はその様子から『足音が畑の肥料になる』という言葉を思い出しました。

『足音が畑の肥料になる』は、数年前に朝日新聞の折々のことばに掲載された言葉です。～作物を思いやって足しげく畑に通うことで、作物にとって最適な支援がわかり、自然に手入れをすることで良い収穫につながる～という内容です。

１年生は、自然な流れでこのことを実践していました。これは人を育てることにも通じることであり、私たち教員が常に意識し大切にしていることです。子どもたちの声に耳を傾け、表情や様子をよく観察すること。そして子ども一人ひとりをよく理解し、必要な時に最適な支援や指導を続けてよりよい成長につなげる。このことが学校教育の中で大切なことと考えます。１年生の姿から改めてこのことを学びました。

これからも子どもたちのよりよい成長と笑顔のため、教職員が一丸となって取り組んで参ります。保護者や地域の皆様、引き続き、ご支援とご協力をお願いいたします。

＜お知らせ＞

今年度も学校・地域コーディネーターとして、　　さん・　　さん・　　さんに、稲作・畑作などのボランティア活動をコーディネートしていただいております。また、水田アドバイザーとして、　　さんが様々な支援をしてくださっています。

今後もボランティア募集の際は、ご協力をお願いします。